

開催にあたって

サクラを求めて日本各地を旅しそれらを絵にした太田洋愛（1910-1988）。植物画の道に入るきっかけは、牧野富太郎（1862-1957）から届いた手紙と描画道具であったと太田は後年述べています。日本人が開花を心待ちにするサクラについて、使いやすく分かりやすい図鑑を作りたいという思いから、太田は1965（昭和40）年の春以降8年にわたり沖縄から千島まで旅しサクラを描きました。そうして出版されたものが『日本桜集』（1973年）です。これは、太田が描きためたサクラ約230種類のなかから154種類を選んだ桜花図譜で、解説は植物分類学者大井次三郎（1905-1977）が担当。太田のサクラを愛する気持ちが結晶したこの図譜の原画を中心にサクラの植物画100点余りをご遺族より借用し展示いたします。



太田洋愛（1910-1988）

愛知県生まれ。旧制中学校在学中に洋画を学ぶ。1929（昭和4）年、旧満州（現中国東北部）に渡り、教育専門学校植物学教室にて後年ハス博士として知られる大賀一郎（1883-1965）のもとで植物画をはじめ。終戦後御留より帰国。教科書・図鑑用の植物図制作や、『原色日本のラン』（1971年）・『日本桜集』（1973年）など出版。日本理科美術協会会員。1970年日本ボタニカルアート協会の創立委員となる。絵巻『さくら』（1980年）がある。



牧野富太郎（1862-1957）

1862（文久2）年4月24日に高知の佐川村に生まれる。生涯に発見・命名した植物は1,500種類以上、収集した植物は約40万点、研究のために収集した書籍は約4万5千冊にのぼる。1926（大正15）年に渋谷から北豊島郡大泉村（現練馬区立牧野記念庭園の所在地）に移り住み、1957（昭和32）年に満94歳で没するまでの約30年をこの地で過ごした。

太田洋愛 上段左より、松前紅笠 1970年【前期展示】、ヤマザクラ（赤芽）1971年【後期展示】、長州緋桜 1968年【前期展示】、太田桜（発見時のスケッチ）1969年【通期展示】、下段左より、チシマザクラ 1970・71年【前期展示】、御車返 1971年【後期展示】
作品・写真はすべて個人蔵

関連イベント

デモンストレーション「桜を描く」

講師：石川美枝子氏（植物画家）
日時：4月7日（日）午後1時30分～3時
内容：桜を長年描いてきたエピソードなどとともに、桜を描く際のコツを実演しながら解説します。
費用：無料
定員：30名（事前申込・抽選）
場所：牧野記念庭園講習室

郵便往復ハガキの住信用裏面にイベント名・郵便番号・住所・氏名・電話番号を、返信用表面に郵便番号・住所・氏名を明記して3月26日（火）【必着】までにお申し込みください（〒178-0063 東京都練馬区東大泉6-34-4練馬区立牧野記念庭園記念館宛）。※お申し込みは一人一週に限りです。

ギャラリー・トーク 学芸員による展示解説

日時：4月21日（日）、6月2日（日）午後2時30分より20分程度
費用：無料（申込不要、定員30名）
場所：牧野記念庭園記念館企画展示室



牧野記念庭園にはスエコザサ、センダイヤ（サクラ）、ヘラノキなど300種類以上の植物が植えられています。園内の記念館では企画展を開催、朝堂では牧野博士が研究に専念した書斎と書庫を公開しています。